



Title	俳句
Author(s)	白井, 文溪
Citation	懷徳. 1937, 15, p. 70-71
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88986
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

圓福僧堂 四句

無思量によりて涼しき寺の縁
實をつけて萬兩の花咲きにけり
不立文字

放下せよと僧の言ひける涼しさよ
一日不作一日不食
作務了へし僧もどり来る蟬の中

○

曼陀羅の縁起を聞くや春の水
野々宮の御垣に牛や竹の秋
落葉松の林を出でゝ夏の湖
少しばかり刈り残しある刈田かな
瀧の上の紅葉に夕陽残りをり

秋五題

七〇

澤 北 斗

白 井 文 溪

摧藏夜泣帳望孤樓

灯を消すや聲の近づく夜の蟲

千秋入臆百恨填胸

老いてゆく我影を見る月の前

君心易改妾意難移

だまさるゝ子に憂なし蟬時雨

金風動壁桂月霄低

秋立ちて夜風冷たき我れを見る

燈前滅影燭下流形

うとましろ來て即興に花火買う

出征兵士を送りて 五句

うつとりと夏の衣をたゝみけり
汗の手に赤心の針とりて縫ふ
夕立のやみて戻りし母の面

古谷美津女